

多言語データベースシステム公開!

## 目次

■ 館長巻頭言「グローバル化時代の迷子たちに」	2
■ 寄稿「ベトナム国家図書館とホー主席」	3
■ 特集「公開！多言語データベースシステム VernaC (ヴァーナック)」	4
■ コレクション紹介「吉上昭三先生寄贈ポーランド語図書」	8
■ 附属図書館講演会報告(平成17年度)「読むことの創造性」	9
■ 海外研修報告	10
■ 図書館統計(平成17年9月～平成18年2月)	11
■ 図書館活動日誌(平成17年10月～平成18年3月)	12
■ 編集後記	12

# 「グローバル化時代の迷子たちに」

附属図書館長 亀山 郁夫

わたしたちの人生が「時間」という枷にしばられるかぎり、たとえば中世の城のように、どんなに遠目の美しさをほこる図書館でも、けっして希望のシンボルたりえない。いや、むしろ、そこに収められている書物の数を思えば、たちまちのうちに絶望のシンボルへと変質しかねない。こうしたペシズムを加速させている、ひとつのゆるぎない現実がある。それが、グローバル化である。

日ごろ、携帯電話とコンピュータの画面に釘付けにされたわたしたちの目が、配架された無数の書物たちを、侮蔑的に見下ろす日が訪れてくるのだろうか。そんな懸念を抱かせるほど、書物という形式は、過去十年間恐ろしくアナクロニスティックな地位に身を落としてしまった。スピードが至上の価値とみなされる時代に、縦横あわせて数十センチの書物が読み手に求める時間は途方もなく、情報収集の手段として非効率的であることこの上ない。だから、わたしたちは、勢い、Webでの手軽な情報入手に走りがちである。たしかに、そこでは驚くべき冒険が可能である。グーグルでもヤフーでもよい。縦7ミリ、横10センチの小さな検索窓をとおして、それこそ世界の果てまで旅することができる。言い換えるなら、この窓を入口として、人類の巨大な無意識の世界に入りこむことが可能である。そして時には、奇跡というしかない詩的なメタファーにだってお目にかかるかもしれない。ためしに、「時間 (time)」と「図書館 (library)」の2つの単語をその窓に放り込んでやれば、ほとんど百分の一秒単位の早さで7億7千万の、広義の「メタファー」に立ち合えるだろう。

人類が共同して築き上げるこのデータ空間は、わたしたちが考える一つの理想的な図書館を体現しているかのように見える。いや、人類が、遠い将来に向けてそうした理想の図書館をめざしてい

ることはいうまでもない事実である。では、書物という形態は文字通り、すでに死に体なのだろうか。そもそも、フロアに林立する書架と、その書架に背を向ける小型コンピュータが共存する光景とは、たんに、敗者と勝者の残酷なコントラストにすぎないのか。

周知のように、図書館の歴史は、カタログという名の道しるべを抜きにしては語れない。しかし、現実には、どんなに手馴れた利用者でも、カタログから、お目当ての本とストレートに遭遇できる確率はさほど高くない。その確率は、Webによる検索システムやエンジンを用いることで、飛躍的に高まっていく。ただし、ここに落とし穴がある。Webの情報が教えてくれるのは、多くの場合、テキストとはとても呼びえないデータ＝情報であり、無数の匿名者たちによって書き込まれたWeb空間は、時にコマーシャリズムと悪意に汚染された空間でもあるからである。その意味で、いまや百億ページといわれる巨大な電脳空間も、情報の総量とその質のレベルにおいて、町の図書館一つ分にはるか及ばないのである。

だから、検索エンジンの恐るべき威力を図書館の潜在的な能力に結びつけるしたたかな能力が欠かせなくなる。ここで忘れてはならないのは、図書館はたんなる本の集積所ではなく、固有名をもつ人々によって幾重にも選別された最高の情報空間であるということだ。そこに収められた書物は、いずれも、責任ある第三者の高い批評性の網をかくぐって誕生した「テキスト」である。「現実の」理想の図書館を築くため、日々行われている選別と蒐集という果てしない作業に思いを馳せるとき、わたしたちは、きっと、これまでとはまた別の思いで、図書館の前に立つことができるのではないか。

## ベトナム国家図書館とホー主席

本学外国語学部教授 宇根 祥夫

ベトナム国家図書館は、首都ハノイの市民の憩いの場であるホアンキエム湖から徒歩で5～6分の所にあります。チャンティー通りは一日中多くのバイクや車が行きかい騒々しいのですが、本館は門から50 m位離れていて、中に入ると外の騒音がうそのように静かです。入った所が検索ホールになっています。古いカード式の検索もできますが、現在は左右両側にそれぞれ5～6台の検索用のパソコンが置いてあります。平日の午後でしたが、閲覧室では独特の静けさの中で多数の人が読書したり調べたりしていました。

本図書館は1919年に創設され、時のインドシナ全権の名をとってピエール・パスキエール図書館と命名されました。所蔵図書は約9万冊でした。1954年抗仏戦争に勝利したあと中央図書館と改名されました。当初の所蔵図書は約18万冊。そして1957年に正式にベトナム国家図書館と命名されました。2004年現在のコレクション：図書（漢字文献を含む）500万冊以上、ベトナム語と外国語の新聞・雑誌2万種等。またベトナム人研究者の全ての博士論文がここに収められ、保管されています。更に本館は文化の中心として、世界150カ国の500以上の図書館や研究機関と常時図書・印刷物の交換をすることによって、貴重な外国の図書を数10万冊収集しています。図書館を利用するには年間3万ドン（約215円）の図書カードを購入する必要があります。開館時間は7:30～20:30で、休館は月2回と祝祭日です。

今日の国家図書館の基礎を築いたのはホーチミン主席（1890～1969）です。世界の傑出した革命指導者と同様にホー主席は教育を大変重

視し、その一環として読書の重要性に繰り返し言及しました。そして本を収集、保管する、また本を読むための場所としての図書館の創設に具体的に力を注ぎました。図書館事業に対するホー主席の貢献は以下の諸点に見ることができます。

- ・主席は図書館を建設、発展させ、またその保護政策を行わなければならないとの信念を持っていた。
- ・主席は民知の向上と革命任務への奉仕に対する図書館の役割を強調した。
- ・主席は常に図書館の規則と内規を尊重した。

主席は常に児童のための本棚を作ることに関心を持っていました。あらゆる方法で子供たちが読書できる条件を作る努力をしました。誕生会を催したいと提案されても、主席は子供たちの読む本が不足していたり、読書室のない学校があるのだから必要ない、無駄だと拒否しました。主席は生涯を通して沢山の本を贈呈されたり贈呈したりしました。また主席は人民、特に青年世代の中に読書運動を広めることにおいても貢献しました。

図書館事業への主席の貢献を考える時忘れてはいけないことがあります。それは主席の図書館利用規則に対する敬服すべき態度であります。ある時主席はドイツ大使に、自分が若かりし時ベルリンで秘密活動をしている時に見たことがある本を貸して欲しいとお願いしました。大使はその本を見付けだして主席に贈呈しました。しかし、その本にはある図書館の印が押してありました。それに気付いた主席は図書館の本を贈呈するなんて許されないと不満を表し、つぎ返しました。

特

集

# 公開！多言語データベースシステム VernaC(ヴァーナック)

▼  
附属図書館

附属図書館では、平成16年度に文部科学省から概算要求事業である多言語データベースシステム構築について予算配分を受け、システム開発を進めてきましたが、このたび平成18年4月より、ヒンディー語とロシア語の2言語について正式公開の運びとなりましたので、本特集でご紹介します。なお、本事業には、システム開発と並行して、附属図書館で所蔵する非ローマンアルファベット系諸言語の、書誌・所蔵データベースへのデータ入力を行うことも含まれており、平成16年度においてはロシア語（旧分類を除く）およびポーランド語資料の目録登録を行いました。

多言語データベースシステム“VernaC(ヴァーナック)”，正式名称“TUFS Library VernaC for Researchers and Librarians”は、翻字を使用して検索することが一般的である非ローマンアルファベット系諸言語について、従来の「翻字」だけではなく「原綴り」も扱うことができることを目的として開発したもので、一般の図書館ユーザーの皆さんには原綴りを使用した横断検索機能を、そして図書館員向けには原綴りとALA-LC方式翻字の双方向変換機能を提供しています。略称の“VernaC”は「(言語が)その土地固有であること」を意味する“vernacular”に由来しています。

なお、システム開発には本学外国語学部の望月源先生と林俊成先生の協力を得、横断検索機能に関する技術面での助言をいただくとともに、原綴りと翻字の双方向変換機能のプログラム・コードを作成していただきました。

## VernaCの特徴

### ・原綴りによる検索・表示

一般的に、非ローマンアルファベット系諸言語の本を探す場合には翻字を使用して検索しますが、VernaCを介することにより、原綴りでも翻字でも同じように検索し、同じ結果を得ることができます。なお、原綴りでの検索機能は現在のところヒンディー語とロシア語のみに対応しています。

また、検索結果もタイトルなど主要な部分が原綴りで表示されますので、探している本かどうかの確認がより簡単になります。

### ・横断検索機能

VernaCは、国内外の特殊言語資料の多い機関の蔵書を横断検索する機能を備えています。附属図書館のOPAC、Webcatを提供している国立情報学研究所の総合目録データベース、米国議会図書館の蔵書データベースなどをまとめて検索することができます。

それではVernaCの使い方をご説明しましょう。



## VernaCへの接続 URL : <http://vernac.tufs.ac.jp/crs/>

インターネットエクスプローラなどのブラウザに上記のURLを入力し、トップページにアクセスします。附属図書館のホームページからもリンクがはられています。(図1)



▲(図1)

## 簡易検索

基本的な検索方法は附属図書館のOPACと同じです。検索キーワードを入力し、「検索の開始」ボタンを押せば検索が始まり、結果が表示されます。簡易検索画面では、検索する項目を特に指定せずに検索します。(図2)

また、検索開始前に横断検索したい機関にチェックを入れておけば、チェックを入れた機関の検索システムを順番に検索し、その結果を一覧表示します。

▲(図2)

## エキスパート検索

エキスパート検索では、「タイトル」「著者」「出版年」など、検索する項目を指定して検索します。(図3)

▲(図3)

## ヒンディー語・ロシア語で検索

VernaCは、ヒンディー語とロシア語の原綴りキーボードを備えており、キーをクリックすることによって入力することができます。画面左下の「キーボード選択」で言語とキーボードを切り換えます。なお、ヒンディー語・ロシア語で検索する場合は、キーボードを切り替えると、その言語の所蔵が多い機関に自動的にチェックが入るようになっていきます。ここでは、例としてヒンディー語で検索してみましょう。

キーをクリックすると、キーボードのすぐ下にある入力フィールドにクリックした文字が表示されます。一通り入力したら、入力した文字をどの検索フィールドにコピーするかを選択して「Copy To」ボタンをクリックすると、指定した検索フィールドに文字がコピーされます。(図4、図5) デーヴァナーガリー文字の入力環境をお持ちの方は、直接検索フィールドに入力することもできます。



▲(図4)



▲(図5)

必要な検索フィールドに文字を入力し、「検索の開始」ボタンをクリックすれば検索が始まります。

横断検索した結果が図6のように表示されますので、機関名をクリックすると、各機関の検索結果を個別に一覧表示することができます。個々の本の詳しい情報は、この一覧表示からさらに本のタイトルをクリックすることによって表示します。(図6、7、8)

Status	検索状況
Library Of Congress	(147件)
COPAC	(313件)
東京外国語大学	(32件)
BobCat	(7件)

←表示したい  
機関をクリック

▲(図6)

42	Īśādi nau Upaniṣada kā kāvyānuvāda : Īśa, Kena, Kaṭha, Praśna, Muṇḍaka, Māṇḍūkya, Aitareya, Taittirīya aura Śvetāśvatara-Upaniṣad	Di Koāpaṭāimsa	1995.
----	---	----------------	-------

←クリック

▲(図7)

LANGUAGE	Hindi (hin)
TITLE	ईशादि नौ उपनिषद् का काव्यानुवाद : ईश, केन, कठ, प्रश्न, मुंडक, ऐतरेय, तैत्तिरीय और श्वेताश्वतर-उपनिषद् / अनुवादिका मृदुल किरति. Īśādi nau Upaniṣada kā kāvyānuvāda : Īśa, Kena, Kaṭha, Praśna, Muṇḍaka, Māṇḍūkya, Aitareya, Taittirīya aura Śvetāśvatara-Upaniṣad / anuvādika Mṛdula Kīrti.
PUBLISHER	नई दिल्ली : दि कोआपटाइम्स, १९९५. Nai Dillī : Di Koāpaṭāimsa, 1995.

▲(図8)

ロシア語で検索する場合も同じ手順で検索できます。

## ヒンディー語・ロシア語以外で検索

その他の言語の本を検索するときは、キーボード選択で「キーボードなし」を選択し、検索フィールドに直接キーワードを入力します。この場合は、翻字から原綴りへの変換はおこなわれず、入力した文字列で検索した結果がそのまま表示されます。

## 終わりに

この特集では、多言語データベースシステムVernaCについて簡単に紹介しました。より詳しい使い方はヘルプをご覧ください。附属図書館までお問い合わせください。

VernaCには今後も随時新しい言語が使えるよう機能を追加していく予定です。ぜひご活用ください。

最後に、この場を借りまして、VernaCの開発にご尽力いただいた望月源先生、林俊成先生のお二人に深く感謝申し上げます。

# 吉上昭三先生寄贈 ポーランド語図書

本学外国語学部教授 関口 時正



吉上昭三先生は1928年に大阪で生まれ、1996年に東京の六本木で、自宅の火事という極めて痛ましい事故で亡くなられた、ポーランド・ロシア文学者である。もともと早稲田の露文を卒業されたのだったが、1964年から1年間ポーランドに留学、帰国後ポーランド文化の紹介に努められた。著書には『ポーランド語の入門』（木村彰一先生との共著）[S61/a7/2] や『白水社ポーランド語辞典』（共編）[S61/a3/17] などがあり、ポーランド文化に関する質の高い文章や情報を毎回多数掲載した貴重な雑誌『ポロニカ』（全5冊）は先生が私財を投じて刊行されたものだ。

吉上先生は、長年外大で教鞭をとられた千野栄一先生（言語学・チェコ語）の盟友だったし、本学でポーランド語を教えてきた（いる）小原雅俊、石井哲士朗、久山宏一、そして私も、みな先生の薫陶を受けた後輩であり、弟子である。吉上先生が外大のポーランド語専攻に寄せていた期待は大きかった。

その外大に先生の蔵書が寄贈されたのは、ご子息の吉上恭太氏のご厚意による。先生が伊東の高台に構えた別荘の敷地内には別棟の図書室があり、そこへ私が4tロングのトラックを運転して寄贈図書を取りに伺ったのは1997年6月16日のこと。別荘地の急勾配でトラックが腹を擦り、冷や汗をかけた記憶がある。梱包、運搬、開梱はポラ科の学生たちにも手伝って貰った。すべては西ヶ原の時代である。あれから9年間、整理を待って痺れが切れる思いだったが、ついに配架された。

寄贈された吉上コレクションは全体で4,000冊足らず、そのうちポーランド語の図書は3,234冊である。外大にはこれまでポーランド語の本がほとんどなかった。オープンキャンパスで訪れた高校生か

ら「他の専攻に比べてなぜこんなに本が少ないのですか？」と問われて暗然としたことさえある。

寄贈書の中で一番ありがたいと思うのは、カルウォーヴィチの『方言辞典』6巻 [S61/a3/565341/1～6] だ。各種のポーランド語教科書をはじめ、言語学、語学関係の本も多いが、やはり何と言っても19～20世紀の文学が充実している。A・フレドロ、ジェロムスキ、シェロシェフスキは全集が揃い、ノルヴィットやシェンキューヴィチ、ブルスは選集がある。吉上先生が何点も翻訳を手がけられたレムもほとんど揃う。

現代の小説は非常に多い。それらのタイトルを見ると、吉上先生自身が、何かいい小説があれば翻訳してやろうと、いつも目配りをされ、買い漁っておられたようすが思い出される。「関口君、最近何かいい小説はないかね？」と、何度たずねられたことか。

社会主義時代の本が大部分で、もちろん紙や印刷の質は悪いが、なかなか入手できない貴重なものが多い。たとえばポーランド文学研究の碩学ユリアン・クシジャノフスキの本などは、今の学生たちの関心も高い民間伝承や民俗学にわたる研究にも大いに役立つ。アダルベルクの『ことわざ事典』4巻 [S61/388/565498/1～4] などでもぜひ活用してもらいたい。ロシア文学出身の吉上先生らしく、ポーランド語でかかれたロシア文学論や、ロシア文学のポーランド語訳などもたくさんある。漱石、芥川、三島、谷崎、安部公房、遠藤周作といった日本の小説のポーランド語訳もある。誰かこういうものを駆使して比較文学的卒業研究をやってはどうかだろう。

【編集注】 [ ]内は、当館請求記号



# 読むことの創造性

近畿大学国際人文科学研究所教授 奥泉 光

現在の小説・文学の状況について、私が考えていることについて述べたい。

そもそも文学とは何であろうか。様々な定義があるが、とりあえず文学には人を感動させたり、思想を変えさせたりと、人を動かす力があると言える。人を動かすものとしては、他に暴力や政治・経済など様々なものがあるが、それらのものと文学はどこが違うのか。それは心の底から人を変える力、つまり理屈や理性に働きかけるばかりでなく、感情や日常的な感覚のレベルで人を動かす可能性を持っているということである。

その文学の力を政治が利用してきた歴史がある。例えば日本の戦前・戦中の歴史を見てみると、軍国美談が沢山作られ、戦争に駆り出された人は、その文学的イメージに支えられ、自己犠牲的に懸命に戦った。私達は近代以降、ありとあらゆるところで、文学の力を用い、イメージや感覚で人を動かそうとする仕組みの中で生きてきていると言える。それに拮抗するための文学力を私達は持つべきである。その文学力とは簡単には感動しない、簡単に動かされない力という。もちろん人間的感動は、私達の生命を豊かにいきいきとさせるものであり、大切であるが、パターンにはまったつまらないことに簡単に感動してしまうことは、簡単に動かされることにつながる。私達は、批評力を持ちつつより大きく感動する必要がある。

その文学力を養うにはどうすればよいか。それは、読むことにつきる。読む行為は、受動的なものではなく、能動的なクリエイティブな行為である。本はものでありインクのしみに過ぎないが、その本を読むことは創造であり、世界を創ることである。例えば、「坊っちゃん」という小説は、読

む人の数だけ存在する。一人一人が違う世界を創っている。文学力を鍛えるためには、どれだけ豊かな世界を創りえたかの経験がポイントになる。

文学の読み方は、正しいか誤りかではなく、豊かか貧しいかが問われる。批評は再創造と言われるが、読者が作家よりも豊かな世界を創り出す可能性があり、そういうことがなければ古典が継続的に読まれることはない。また、読むに値するテキストとは、より大きく、スリリングな創造を可能にし、多様な読み方を可能にするような異質なものを孕んでいるテキストである。つまりは、読みにくいものを読んだ方が良いのである。全てが容易に理解できるテキストからは小さな世界しか創れない。

繰り返しになるが、文学力は今こそ本当に必要とされている。それがなければ、気がつかないうちに日常のなかで人はどんどん一方向へ動かされてしまうだろう。それに抵抗するためには、内に批評性を孕んだ文学力が必要となる。また、質の高い感動が必要である。そのためには読むことの経験を積み重ねることにより、一様ではない複雑で陰影のある感動の世界を創り上げていかなければならない。しかも、これは苦行ではなく、そのこと自体が面白いことであり、質の高い感動をすることが、私達の生をいきいきとさせるだろう。

感動なしでは生きられない私達が、どれだけ大きな感動を養うか、持ちうるか、私達の文化の質がそこで問われる。

(文責 高杉 泰穂)

【編集注】本稿は、平成17年10月26日に開催された附属図書館講演会の要旨です。



## 地域研究コンソーシアム情報資源共有化研究会 第1回スタディ・ツアーに参加して

附属図書館

附属図書館職員2名は、本学COEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点（C-DATS）」が進める電子図書館プロジェクトの一環として、標記ツアーに参加しました。訪問先はオランダ、スウェーデン、デンマークの3ヶ国。ツアー参加者は本学2名と京都大学から3名の計5名でした。

期 間：2005年9月18日～9月26日

目 的：ヨーロッパの史資料コンソーシアムの実情とアジア関係文献の収集・保存の実態調査、およびEuropean Association of Japanese Resource Specialists年次総会への出席

訪問先：

1. Netherlands Institute for War Documentation  
(オランダ・アムステルダム)

ヨーロッパにおける第二次世界大戦に関する資料を収集する研究機関。図書・写真・ポスター・手稿等に加え、テレビ番組等の映像資料も収集・保存しています。

2. Royal Netherlands Institute of Southeast Asian and Caribbean Studies (KITLV)  
(オランダ・ライデン)

東南アジア、太平洋地域、カリブ海地域を対象に人文・社会科学系の資料を収集する研究機関。インドネシアのジャカルタにオフィスを設け、現地語資料の収集も行っています。

3. IDC Publishers (オランダ・ライデン)

一次資料の複製出版（主にマイクロフィルム）で有名な出版社。企画から作成までの流れを説明していただきました。また、自社内にあるマイクロ作成工房も見学しました。

4. European Association of Japanese Resource Specialists年次総会（スウェーデン・ルンド）  
ヨーロッパの日本研究者が構成する研究団体

の総会に出席。図書館で取り組んでいるOPACの多言語化とC-DATSの活動について発表を行いました。

5. Nordic Institute of Asian Studies (NIAS)  
(デンマーク・コペンハーゲン)

北欧5ヶ国（アイスランド、フィンランド、デンマーク、スウェーデン、ノルウェー）におけるアジア研究の中心機関。欧米語で書かれたアジア関係資料を収集。また、学生や研究者の受入れ・支援に積極的で、北欧各国との文献複写・貸借サービスも行っています。

いずれの訪問先でも、自らの専門性と役割を明確に意識し、コレクションやサービスの充実に取り組まれている姿勢に感銘しました。また、9日間に及ぶツアー期間中は、参加者同士の情報交換も進み、大変有益でした。

最後に、当ツアーへの参加・実施にご尽力いただきました皆様に心から感謝いたします。

(上田誠治・大和加寿子)

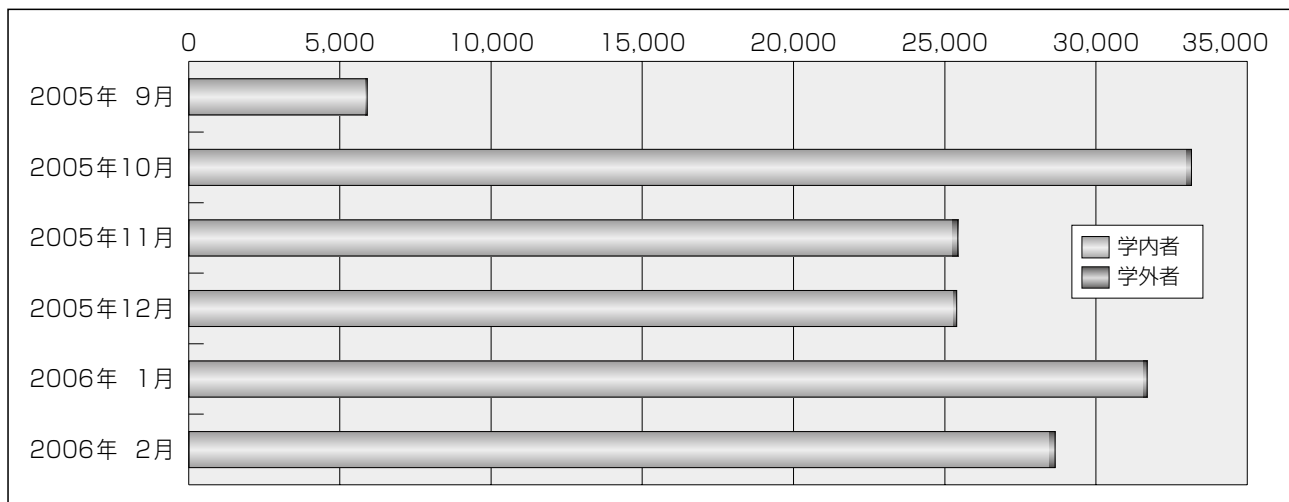


▲Nordic Institute of Asian Studies資料室

# 図書館統計

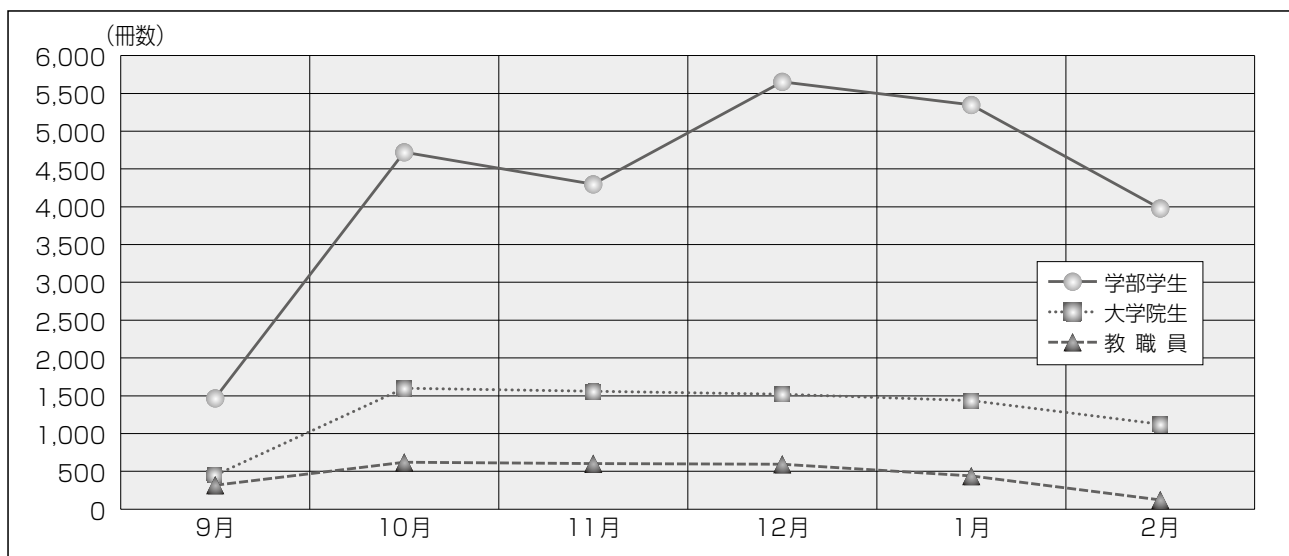
## (月別入館者統計・貸出冊数統計)

### 月別入館者統計



	2005年 9月	2005年10月	2005年11月	2005年12月	2006年 1月	2006年 2月
学 内 者	5,820	32,968	25,229	25,241	31,523	28,438
学 外 者	87	196	210	161	175	216
合 計	5,907	33,164	25,439	25,402	31,698	28,654

### 貸出冊数統計



	2005年 9月	2005年10月	2005年11月	2005年12月	2006年 1月	2006年 2月
学部学生	1,465	4,720	4,296	5,652	5,346	3,977
大学院生	477	1,597	1,557	1,520	1,435	1,120
教 職 員	317	619	602	594	437	121
合 計	2,259	6,936	6,455	7,766	7,218	5,218

- 10月 1日……………「Scopus」の提供開始  
 10月11日……………第1回タイ語等資料の取扱いに関する検討会議 2名参加 (於 国立情報学研究所)  
 10月13日……………平成17年度第2回図書館委員会  
 10月13日……………情報検索ガイダンス (全9回 ～10月25日)  
 10月14日……………全国外大学長会議による視察  
 10月24日……………平成17年度図書館貴重書 (中国清代資料) 展示会 (～11月22日)  
 10月24日……………EUIJ図書WG会議 1名参加 (於 津田塾大学)  
 10月26日……………平成17年度附属図書館講演会 (奥泉 光氏)  
 10月26日……………平成17年度第3回選書委員会  
 10月31日……………平成17年度学術情報リテラシー教育担当者研修 報告者1名派遣  
 (於 国立情報学研究所)  
 11月16日……………平成17年度学術情報リテラシー教育担当者研修 報告者1名派遣 (於 大阪大学)  
 12月 5日……………JCAS情報資源共有化・地域情報学研究会合同研究会 報告者1名派遣  
 (於 京都大学東南アジア研究所)  
 12月14日……………平成17年度第4回選書委員会  
 1月19日……………「Oxford Journals Online」「官報WEB版－官報情報検索サービス」の提供開始  
 1月20日……………第2回タイ語等資料の取扱いに関する検討会議 2名参加 (於 国立情報学研究所)  
 2月 1日……………平成17年度第5回選書委員会  
 2月21日……………NACSIS-CAT/ILL講習会実施検討会議 1名参加 (於 国立情報学研究所)  
 3月17日……………アジア情報関係機関懇談会 1名参加 (於 国立国会図書館関西館)  
 3月20日……………平成17年度第3回図書館委員会

## 編 集 後 記

- ここ数年で原綴りを使用するPC環境は飛躍的に整備されてきましたが、まだまだ十分とはいえません。できるだけ早く導入できるよう今後も多言語PC環境の動向に注目していきたいと思います。(大和)
- 就職してからは、お正月より4月1日の方が1年の始まり、という感じがします。新入生の方をお迎えするときの新鮮な気分が、そう思わせてくれるのかもしれません。(千葉)
- キャンパスが西ヶ原にあった頃に外語大におり、府中に移転した数年後、また勤めることになりました。西ヶ原時代とはうって変わった建物や施設・設備の充実ぶりに、目を見張る思いがします。(吉田)
- 春は別れの季節でもあります。本図書館でも今春、お二人の方が定年退職を迎えられます。図書館の生き字引のようなお二人です。山田さん、石川さん、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。(高杉)

## Castalia：東京外国語大学附属図書館報 第11号

2006年3月31日発行

発 行：東京外国語大学附属図書館 〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

電 話：042-330-5193 ホームページ：<http://www.tufs.ac.jp/common/library/index-j.html>

印 刷：三鈴印刷株式会社